西東京市市民協働推進センター

令和元年度第6回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和元年10月15日(火)午後7時00分～8時00分
■開催場所：イングビル3階第3、4会議室
■出席委員：古林委員、櫻井委員、柴委員、久松委員、三好委員＜以上5名、五十音順＞
■事務局　：小松センター長、鈴木副センター長、妻屋福祉活動推進課長、山田地域福祉推進課係長、青木主事

今回運営委員の出席が過半数に達しない為、運営委員会は成立せず。

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、9月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

副委員長：西部地域協力ネットワーク定例会のカードゲームとはどういうものか。

事務局：ジョージ防災研究所の小野さんが作成されたもので、2名1組となりカードに沿った課題をどう解決するかというものだ。3分に1枚のショートバージョンで10枚ほど行った。

副委員長：南部地域協力ネットワークの「人生100年時代の勉強会」とは何か。

事務局：お金の使い方と健康維持について講師を呼ぶ勉強会のことである。西部も南部も情報交換と勉強会がセットで開催されている。

委　員：社会教育委員会会議の「西東京市の放課後子ども教室」とはどんなことか。

事務局：学校単位でPTAや親の会が主になり、社会教育委員会から委託を受けて運営している。校庭開放の他、学校により様々な活動を行っている。放課後の子どもの居場所という意味合いで取り組んでいるが、学校により差はある。

委　員：住吉小学校では手話やダンスを行っており、ランドセルを置きに帰らずに、そのまま参加出来る。予算もついて活動している。

事務局：学童と一体型と遠景型の2パターンがある。学童クラブが学校の中だけにあるわけではないので、遠景型の場合は学童の対策にはならない。

委　員：地域の子どもに障害者は入っていないという事をいつも感じる。カウントもされない。

副委員長：西東京市の中でも、やっている学校とやっていない学校がある。誰も受け手がないと、開催出来ない学校が出てくる。

事務局：行政の縦割りではなく、子育て支援課とも一緒にやってはどうかという意見が出ている。

副委員長：どういう立場で会議に参加しているのか。

事務局：センター長として、毎月参加する。西東京市の地域と学校をどうやって協働していくかということだ。

副委員長：他市でも活発にやっているのか。

事務局：小平市は10年前からスタートしている。各小学校で地域協力コーディネーターがいる。

2. 10月以降の事業について

事務局より、10 月以降の実施事業について説明があった。

副委員長：おとぱ&ミディサロンの今後はどんな話し合いがされたのか。

事務局：今年度残り 5 回をどう運営するかだが、上半期から始めた毎回 1 名ずつ発表するのが良かったので続けたい。それに伴い、知り合いに声をかけて連れて来ようなど活発に意見交換がされた。「このサロンは男性が多く参加していることが珍しい。」という声があった。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

2. 事業報告について

委員長：現時点で委員の定数に満たないため、保留とする。

3. 協　議　事　項

1. 自主企画委員会（やってみ隊）について

事務局より自主企画委員会の進め方について説明があった。

副委員長：当初の 5 名が関わってくれるのか。

事務局：やってみ隊の趣旨説明をしたときに集まった 5 名には、もう一度説明をしていく。

副委員長：5 名が講師も決めるのか。

事務局：難しいと思う。講師は絞ったうえで提案していくことを考えている。

副委員長：このテーマで話して欲しいと思う講師はいる。打ち合わせの時間の調整はどう考えているのか。

事務局：候補をあげてもらい出欠をとることを考えている。

委　員：やってみ隊のメンバーに主体的になって欲しい。

副委員長：講師も自分達で選ぶのではないとなると、なかなか主体的にはなれないのではないか。

2. 第三者評価について

事務局：協議事項だが、次のプロポーザルに向けて委員から意見を伺いたいので次回説明する。事前に資料を委員宛に送付する。

副委員長：資料は読み込んでもらい次回質疑応答できるよう委員も準備することとする。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：11 月 19 日（火）19 時～21 時

会場：イングビル 3 階　第 3、4 会議室